

# ～地域に生きる～ すぎの子はつつ通信

～療育での表出コミュニケーション支援～



令和元年10月発行

## コミュニケーション = キャッチボール

どちらも必ず  
相手が存在するもの！



ボールを投げる ↔ ボールを受ける

相互作用



情報を伝える(表出) ↔ 情報を受けとる(理解)

コミュニケーションとは、人と人との間で、メッセージを伝達しあうことによって“意味を共有する”こと。自分と他者との表出・理解の相互作用によって成り立っています

## 表出コミュニケーション支援



適切な伝え方（ボールの投げ方）を教えること



## 療育での取り組み

### PECS（ペクス）・・・絵カード交換式コミュニケーションシステム



PECSでは、欲しいアイテムの絵カードを相手に手渡して要求を伝えます  
音声言語で十分にコミュニケーションがとれない人や、自発的なコミュニケーションに  
困難さがある人、コミュニケーションの方向が相手に向きにくい人などへの  
補助代替コミュニケーションとして用いられます



おもちゃの要求



おやつ



PECSには6つのステップがあり、  
スモールステップでコミュニケーションに  
必要なスキルを身につけていきます

大切なのは、

- ・ “自発的なコミュニケーション” を育てること
- ・ できるところからスモールステップでスキルを積み上げること

フェイス1	絵カードで自発的に要求する
フェイス2	離れた位置から絵カードを交換しきて要求する
フェイス3	カードを弁別して選択する
フェイス4	「〇〇ください」という文で要求する
フェイス5	「何がほしい？」と聞かれて応答的に要求する
フェイス6	質問に応答的にコメントする、自発的にコメントする



# PECSを用いた取り組みの例

## Aくんの事例



### ～取り組み前の様子～

言葉による表出、発信が難しくその場からの離席や物を取るなど直接的な行動で示すことが多く、人に向かったコミュニケーションが少ない様子でした。



自発的な要求を教えていくためには、まずAくんから要求を引き出すことが必要でした。Aくんの興味関心を探りながら、療育の中でまずAくんが「欲しい！」と思える興味の高いアイテム（食べ物やおもちゃなど）を見つけることから始めました。



そこから、カードを相手に手渡したら手に入るという絵カード交換の意味（ボールの投げ方）を教えていきます。

対面で繰り返し実施



離れた相手にも伝えにいく



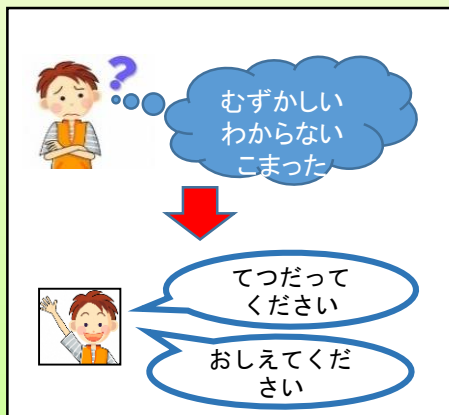
### ～取り組みの経過～

Aくんの興味関心に合わせてすすめていくことで、**自発的な表出**が増えていきました。また、ご家庭と協働して取り組みを進めていくことで、複数の絵カードから欲しいアイテムを選択して伝える、「〇〇ください」と文章を構成して伝えることができるようになりました。取り組み前に比べるとAくん自身が**“相手に伝えよう”**とする姿勢にとっても変化がみられます。

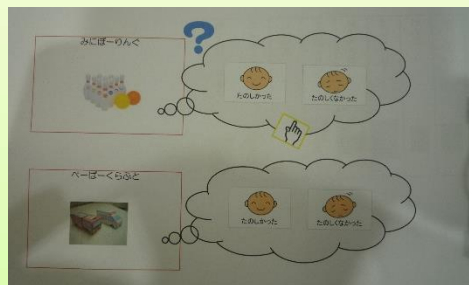
## 療育ではひとりひとりの目標に合わせて取り組みをすすめています

### （例）援助の要求

どのように伝えるといいかを視覚的に示す  
→設定された環境でまずは伝える練習から



### （例）気持ちの表出



無理なく表現が可能な手段からはじめることで活動に対する気持ちを表出しやすくなりました



大切なのは“成功経験”  
「できた！」「伝わった！」  
から意欲は育ちます